

## はじめに

誰もがかかる白内障——手術で後悔しないために

日本の眼科領域のトップメーカーである参天製薬による「白内障」についての高年者の意識調査を見ると、人生百年時代を迎えるにあたり、白内障関連のネット検索をする方が非常に増えている状況がわかります。

白内障になる人は60代ごろから増え始め、70代で90%以上、80代ではほぼ100%となります。すなわち、白内障とは高齢化とともにすべての人に発症する、逃げられない眼病なのです。

それも急に白内障になるわけではなく、老化とともに少しずつ進みます。その初期症状とも言えるのが、実は「老眼」なのです。年をとれば老化に伴って眼球の水晶体（カメラのレンズに相当）の弾力が低下していきます。これが老眼の原因なのですが、水晶体の弾力は均一に弱まるわけではなくバラつきができるので、歪みのあるレンズになってしまいます。老眼になると乱視もすすみやすいのはこ

のためです。

さらに、ものがダブって見えたり、光をまぶしく感じたり、眼がかすんだり、視生活に少しでも違和感を覚え始めたら、白内障などの眼病を疑いましょう。こうして、老眼から白内障の発症や緑内障、加齢黄斑変性など他の余病の併発へと、気付かぬうちに眼病は進行していきますので、少しでも早めの眼科専門医への受診が必須です。

事実、慶應義塾大学医学部眼科の根岸一乃教授が監修された参天製薬による中高年者の「**白内障**」についての**意識調査をまとめた「白内障ミュージアム」**のサイトにおいて、最近目立つのが「**眼内レンズ**」の費用や「**健康保険の適用**」、さらに「**多焦点眼内レンズの種類やその費用**」というワードであり、特にそれらへの**関心度が高まっています。**

白内障の手術を受ける前に、本人あるいは家族の方が各眼内レンズの特性や金

額、そして副症状やデメリットなど、具体的なことを詳しく知っておきたいという意識の表われが示されています。

しかしながら、各眼科施設のホームページを検索しても、多焦点眼内レンズについてほとんど夢のような良いことしか書いてありません。また、この夢のような情報だけでなく、さらにネット広告やSNSなどによる偏った情報まで鵜呑みにして、真実を知らずに非常に高額な費用を支払いながら白内障の手術を受ける方も少なくありません。その結果、非常に高い金額の問題はもとより、その後さまざまな副症状や不具合、さらにリスクなどの問題を終生引きずってしまうこととなり、後悔先に立たずという結果になりかねません。

健康保険がすべて適用される眼内レンズと、

一部のみ適用される眼内レンズ、全く保険が適用されない眼内レンズ

このような理由から、まず、保険が適用される眼内レンズには、すべてが保険適用されるものと、一部のみ保険適用されるもの（「選定療養」）があり、全く保

除が適用されないもの（自由診療）を含めて、眼内レンズ全体では大きく分けて4種類があることを知っておいていただきたいと思います。

① 単焦点眼内レンズ……健康保険のみで低額で治療可能な眼内レンズ

② 保険適用可能なプレミアム眼内レンズ……健康保険のみで低額で治療可能な遠方から中間領域（手元50cm～60cm）まで明視域の広がる付加価値のある3種類の「プレミアム単焦点眼内レンズ」及び「低加入度数分節型眼内レンズ」（レンジイスコンフォート）

③ 「選定療養」の多焦点眼内レンズ（厚労省薬事承認が得られている製品）……一部の健康保険が適用される「選定療養」に該当し、保険適用を超える差額分が高額な金額の自費負担（保険外併用療養費）として支払いが必要となる上に、眼の余病のある症例などでの手術適応外（除外基準）も決められており、多くの副症状とデメリットやリスクもある多焦点眼内レンズ

④ 「自由診療」の多焦点眼内レンズ（厚労省薬事未承認の製品）……健康保険を全

く使用しない「自由診療」による非常に高額な全額自費負担が必要となる上に、眼の余病のある症例などでの手術適応外（除外基準）も決められており、多くの副症状とデメリットやリスクもある多焦点眼内レンズ

超高額だがボヤケる多焦点眼内レンズの金額の「闇」

眼内レンズについてお知らせしておきたいのは、厚生省薬事承認された「選定療養」の多焦点眼内レンズでも、受診した眼科施設での表示金額が非常に高く設定されているからといって、患者さんご自身にとって「とても良い眼内レンズだ」などということでは決していないということです。

さらに言えば、保険がまったたく適用されない厚生労働省未承認の多焦点眼内レンズの超高額な金額の根拠も「闇」のままであり、そのようなレンズを使った「自由診療」での白内障手術を超高額な金額のカラクリも知らぬままに受ける患者さんまでいるという現実もあります。どんなに高い金額の手術料を支払ったとしてもどのような多焦点眼内レンズにも必ず多くの問題点があるのです。

これに対して、良心的で経験豊かな眼科医なら、保険適用の範囲内でプレミアム眼内レンズなども駆使して賢い白内障手術を施し、患者さんに快適で満足度の高い視生活を低額の費用で提供することが可能となりました。

しかしながら、一部の眼科医療施設が、さも素晴らしい眼内レンズであるかのように患者さんに非常に高額な価格を提示して、多焦点眼内レンズをネット広告やSNSなどで喧伝して勧め、バカ高い手術費用を患者さんから徴収している現状があります。

### 3つの大きな問題点

多焦点眼内レンズをめぐる大きな問題点については、端的に挙げると大きく3つあります。

第1の重大な問題点は「高額な費用の裏にひそむ『闇』の部分」です。健康保険制度の一部でもある「選定療養」制度を悪用するなどの抜け道を利用して、原価の数倍以上もの非常に高額な費用を請求している眼科施設もあり、大きな問題だと感じています。

第2の重大な問題点は、高齢者に多い「白内障の他に眼の余病のある人」には向かない眼内レンズであるということです。加齢による白内障以外の余病として、緑内障や加齢黄斑変性、糖尿病網膜症や動脈硬化などによる眼底出血、網膜前膜、網膜裂孔、ドライアイなど、網膜や視神経、角膜などの眼病の合併のリスクが高く、また、認知傾向など脳の機能低下症状も進みやすいことも明らかになっています。このように、加齢に伴う白内障以外の眼の余病や脳の機能低下傾向を有する中高年者の症例では、手術後や経年後に良好な視力が期待できないため、多焦点眼内レンズは手術適応外（除外基準）となっていますが、残念ながら一部の眼科では実施されています。

しかし、概ね70歳以上の多くの方々には、このような何らかの眼や脳の余病を合併して加齢とともに進行していく可能性があり、多焦点眼内レンズに関しては手術後の老後の生活には向いていないと言えます。また、夜間の運転を多くなさる方や手元で細かい作業をする方、薄暗い環境での作業をする方にも向きません。

そして、第3の大きな問題点は「手術後に起こるコントラスト視力（見え方の鮮明度）の低下や遠方視力の低下」、さらに、本文で詳述するほとんどの多焦点眼内レンズに特有の副症状の「不快光視現象」（グレアやハロー、スターバーストなど）です。最近では、そのような副症状を緩和するような多焦点眼内レンズも出てきてはいますが、その結果、多焦点眼内レンズのもともとの大前提の目的である「老視を治すための多焦点眼内レンズ」という趣旨からは外れてしまい、かえって手元などの近方が見づらくなるという本末転倒の欠点も指摘されています。

## 一生快適な視界を守るために

「ご挨拶が遅くなりました。私は熊本県宇土市にある、むらかみ眼科クリニックの院長を務める村上茂樹です。

これまでの私の略歴としましては、日本の医学の歴史と共に発展を続ける順天堂大学医学部とその大学院で学び、高齢者の失明予防医学の研究に努め、臨床面においても日本の眼科病院として最も歴史ある井上眼科医院（東京都）の診療部長などの要職も歴任し、1996年（平成8年）に当院を開業しました。

そして、開業以来、毎日のトレーニングなどでの健康維持と体調管理にも努め、これまでの30年間、1日の欠診日もなく日々の治療と手術を弛まず継続して今日まで参りました。

そして、これまで1万3000件を超える白内障手術を手掛けてきたなかで、いつも大切にしてきたのは、白内障になった患者さんが手術後もずっと快適な視界で気持ちよく暮らしていけることです。

ところが大変残念なことに、白内障手術では患者さんに詳しい知識がないのを

いいことに、白内障以外にも眼の余病のある患者さんや高齢者の患者さんには適応外となる不向きな非常に高額な眼内レンズを、しかも恣意的にさらに高額にして勧めてくる眼科も少なくありません。

患者さんにとって、目の手術は不安なものですし、一生にかかわる大切なことです。私たち眼科医を信じて頼ってくださいる患者さんの切実な想いにつけこんで高額なレンズをさらに高額な金額に設定して、まるで手術後のことなど関知しないかのように勧める行為は、患者さんへの裏切りではないでしょうか。

患者さんが、専門家である眼科医の言うことを疑うのは難しいと思います。ただ、せめて情報として白内障手術の実態を知っていただき「本書」にある情報と知識を備えることで、眼科での白内障と眼内レンズの手術についての正しい理解のための一助としていただくことを願い、私は本書を執筆しました。

このように本書では、**白内障手術を受ける前にぜひ知っておいていただきたい**

多焦点眼内レンズについての先述した3つの大きな問題を詳しく解説していきます。また、健康保険のみで治療可能なプレミアム単焦点眼内レンズの長所や、視域の広い快適な視生活を実現する当院開発の最新の手術法である「コンフォート・モノビジョン法」。(特許庁認可登録) と共に、白内障についての基礎知識なども詳しく紹介していきます。

本書をきっかけに、一人でも多くの患者さんが自分の生活スタイルと眼に合った白内障手術を、適正な金額で受けられるようになってくださったら、著者として望外の喜びです。